

体協

第100号記念号

平成 26 年 4 月 15 日

いのちやま

発行：特定非営利活動法人 飯山市体育協会 / 〒389-2251 飯山市大字旭 4722 飯山市民体育館内 印刷：(有) 足立印刷所



竹内 択選手
2014ソチ冬季オリンピック
ジャンプ男子団体

銅メダル おめでとう!!

飯山市民
メダル獲得第1号!!

「体協いいやま」

第100号

発刊によせて

飯山市長

足立 正則



「体協いいやま」が発刊100号を迎えられます。

会員の皆様には、日頃より市民の皆様の健康づくりとスポーツの振興のためご尽力いただき、深く敬意と感謝を申し上げます。

少子高齢化社会を迎え、スポーツを通して、精神力や体力を養い、仲間同士のコミュニケーションを図ることは、健康長寿の礎であるとともに、地域の活性化など、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成する上で欠かすことのできない存在であります。

また、本年2月のソチオリンピックでは、竹内択選手が本市初のオリンピックメダリストとなり、我々に夢と感動を与えていただきました。これからのジュニアスポーツ振興に大きな力となるものと確

信しております。

来年の3月には、北陸新幹線飯山駅が開業をします。豊かな自然と、観光などの利便性を活かした各種スポーツ大会の招致など「スポーツツーリズム」が貴協会をはじめとする関係の皆様のご熱意と行動力により大きな成果を生んでおり、さらなるスポーツ振興及び地域活性化が期待されます。

平成元年7月の創刊から、貴協会の輝かしいあゆみの発刊に携われた皆様のご苦勞に敬意を申し上げます、会員の皆様のご活躍と貴協会の更なるご発展をご祈念申し上げます、お祝いのごことばといたします。

第100号の発刊にあたり

公益財団法人 長野県体育協合理事長

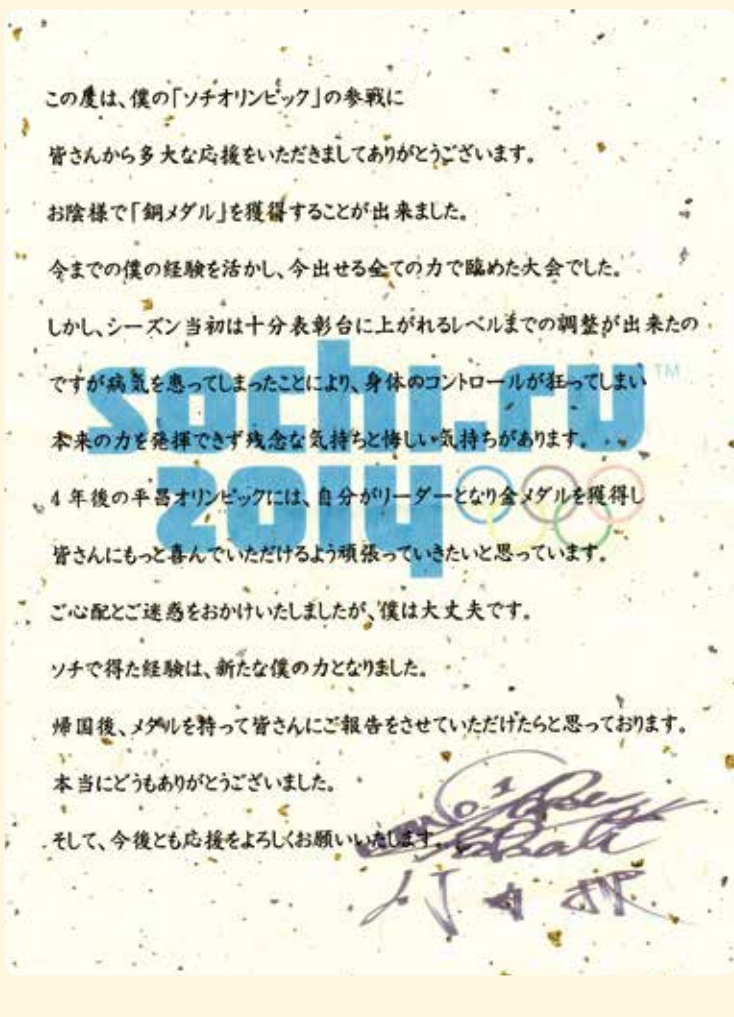
林 泰章



「体協いいやま」の第100号の発刊に際し、

心からお喜び申し上げます。

2014冬季オリンピックジャンプ男子団体 銅メダルを獲得した竹内選手より市民の皆様へ



この度は、僕の「ソチオリンピック」の参戦に皆さんから多大な応援をいただきましてありがとうございます。お陰様で「銅メダル」を獲得することが出来ました。今までの僕の経験を活かし、今出せる全ての力で臨めた大会でした。しかし、シーズン当初は十分表彰台に上がれるレベルまでの調整が出来たのですが病気を患ってしまったことにより、身体のコントロールが狂ってしまい本来の力を発揮できず残念な気持ちと悔しい気持ちがあります。4年後の平昌オリンピックには、自分がリーダーとなり金メダルを獲得し皆さんにもっと喜んでいただけるよう頑張っていきたいと思っています。ご心配とご迷惑をおかけいたしました。僕は大丈夫です。ソチで得た経験は、新たな僕のカチとなりました。帰国後、メダルを持って皆さんにご報告をさせていただけたらと思っております。本当にどうもありがとうございました。そして、今後とも応援をよろしくお願い申し上げます。

25年の長きにわたり、体育・スポーツに関する情報を発信し続けてこられた功績は誠に多大であり、編集に携われた方々のご尽力に対し、深く敬意と感謝を申し上げます。

の活性化など、スポーツの果たす社会的役割は益々増大しているものと拝察されます。

さて、貴市では、先ごろ開催されたソチ冬季五輪でジャンプ競技のメダリストを輩出されるなど市民のスポーツへの関心も高まり、また、来春の北陸新幹線飯山駅開業に向け、各種イベントによる地域

長野県におきましても、「スポーツが変える人、くらし、地域、未来」を基本理念とする「長野県スポーツ推進計画」を策定し、誰もがスポーツに親しめる「生涯スポーツ社会」の実現をはじめとする各種施策を展開しております。

本会といたしまして、今後とも皆様方と手を携え、本県

スポーツの推進と県民の体力向上に努めてまいりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに「体協いいやま」が、これからもスポーツを愛する多くの方々に活用され、また、貴協会が地域スポーツの推進を担う中核組織として益々発展されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

本会といたしまして、今後とも皆様方と手を携え、本県

100号記念座談会

菊池渡 × 清水長雄 × 山崎一郎 × 清水侃 × 石澤一芳

昭和63年〜平成13年/会長

平成14年〜平成15年/会長

平成16年〜平成18年/会長

平成23年〜平成24年/会長

【司会】平成25年〜現在/会長



石澤 お忙しいところご出席いただきありがとうございます。飯山体育協会の広報誌「体協いいやま」が、4月発行予定の号で第100号を数えます。



菊池 体育協会の各種事業を市民の皆さんに知っていただき、飯山市のスポーツ振興に役立ててほしいと云う思いと、市民の皆さんに報告する義務があるのではないかと云う事で発行に至った訳です。予算もないことから自分たちの手で作りあげようというのが始まりです。

創刊号が平成元年の7月に発行され25年の長きに渡って市民と体協をつなぐパイプとして、その役割を果たしてきたわけです。今日は、この間の「体協いいやま」が歩んできた道のりを振り返り、そのことよって今後の体協が目指す方向を探ることができたなら、という思いで歴代の会長さんにお集まりいただきました。よろしくお願ひします。

菊池会長さんは大変長くご尽力され様々な成果を上げてこられました。この「体協いいやま」が発刊に至った経緯などを伺います。



過去から未来へ

菊池 各種競技団体は、季節により活動する期間が違うわけですが、それぞれの競技を全員で協力して取り組もうという意識がありました。飯山国体におい

てもコース造りなどはスキー部の指導のもとで協力し取組みました。その中でも佐藤俊平さんが中心となり大会運営や役員を取りまとめられたことが大きな力になったと思います。

石澤 次に「体協いいやま」の第4号、18号、24号に武道館、弓道場、室内運動場と体育関連施設が次々に充実していく様子

が出てきますが、そのあたりのご苦労などはいかがでしたか。菊池 各部の意見、要望をまとめ、体協の意見として市、議会に認めていただきました。建設中もお任せではなく市長にも一緒に建設の様子を見ていただき、しっかりとした施設を造っていただきました。

何と言っても特筆すべきは飯山国体の開催です。この飯山国体の思い出深いことをお聞かせください。

石澤 次に、長野県縦断駅伝大会についてお話を聞きます。この駅伝大会は、飯水全体で力を入れる大会です。平成8年から10年にかけて8位、7位、7位と好成績を残しています。この頃、なぜ好成績を残せたのかお聞かせいただきたい。



菊池 選手の努力もありました。が、駅伝振興会の前身である応援団ができて皆さんに関心を持っていただいた事も大きな要因ではないかと思えます。



石澤 ありがとうございます。次に、清水長雄会長の話に移りたいと思います。清水会長

の時代、北信越ゲートボール選手権大会を開催しています。第57号ですね。福井、石川、富山、新潟、長野の北信越5県100チームにより長峰のグラウンドで開催とあります。次の年に菜の花ゲートボール大会を開催していますね。このあたりのお話をお聞きしたいと思います。



清水長 平成15年度北信越ゲートボール

選手権大会は、5月31日〜6月1日に長峰多目的グラウンドで開催され大成功でした。

この大会は、前年度松本市の県営運動場で行われました。飯山市ゲートボール連盟の横村会長さんから次年度は飯山を会場にしたかどうかという提言がな

されました。北陸3県からの参加者には、高速道路の利用を考えますと飯山市は大変都合がよいというので多くの賛成者がいました。

「体協の会長(教育長)はどうでしょうか」という問いに両手を挙げて賛成しました。100チームの選手の泊まりを伴う大会は大変魅力がありました。

このことが以後の菜の花ゲートボール大会に結びつくとはびっくりしています。ゲートボール連盟の皆様のご努力に感謝しています。



石澤 ありがとうございます。次に、山崎会長の頃にNPO法人になりました。経緯をお聞かせください。



山崎 体協は、以前から教育委員会の中に

あり財政支援を受けておりましたが自立をしなければならぬ状況となり、また市民体育館等市の体育施設管理や、各種大会やイベントを体協で委託を受けてほしいと云う話がありまし

た。それには法人格が必要だということ。清水前会長の時から2年間の視察や検討を行いました。

その時の内田事務局長に随分ご苦労いただき、県下でも早い時期に法人となりました。

清水長 平成13年8月に教育長の諮問機関として「スポーツ振興懇談会(座長 丸山一之さん、副座長 菊池渡さん、委員9名)」が設置されました。月1回の予定で1年間研究協議がなされ14年8月に答申されました。

その中で体育協会と競技団体の事務自立体制(教育委員会の中に事務局が置かれていた)の確立として、体協のNPO法人化、体育施設の管理委託、事務局体制の確立、組織の強化を図る必要があると提言されました。生涯スポーツ社会の実現に向けて、市民、地域、行政が互いの果たす役割を十分に理解しあい、体協としての地位向上を目指してNPO法人化に踏み切りました。

完全学校週5日制の実施や総合型地域スポーツクラブのスタートなどの進む中、競技スポーツ振興と生涯スポーツ振興の両面の充実を図って行くためにNPO法人としての体協の在り方が求められていると考えて

います。そのために平成16年9月設立総会を迎えるまで2年間の研究、検討時間を必要としました。

石澤 山崎会長の頃には他にどんな思いが残っていますか。

山崎 一点は、菜の花ゲートボール大会の開催ができた事です。北信越ゲートボール選手権大会の評判が良かったので、次の年に大会を実施する事になりました。飯山市の一番のイベントの菜の花まつりに合わせてやろうということになり飯山市ゲートボール連盟の皆さんに随分ご苦労いただきスタートできました。また、飯山のゲートボール連盟の横村会長とゲートボールマスターズクラブ会長の山崎さんに随分お世話になり、台湾との繋がりができ、菜の花ゲートボール大会に100名程の参加をいただいたこともありました。また、その時の繋がりで台湾へ飯山からお米やお酒などを輸出するきっかけにもなりました。

また、文化服装学園の大沼理事長の縁で日本ゲートボール連盟の小野清子会長に第5回の菜の花ゲートボール大会に来ていただき多目的運動広場に桜の木を植樹していただきました。その小野会長のご尽力によって飯

山シャンツェの改修資金の補助金にもつながりました。

清水長 菜の花ゲートボール大会に来てくれたお客さんが一番喜んでくれたものがアスパラのお土産でした。

石澤 北信越、菜の花ゲートボール大会が色々な部分に発展し飯山の活性化につながった訳で素晴らしい事です。

次に、清水侃会長にお聞きします。飯山にスキーが伝わって百周年という事があります。さらに、新幹線飯山駅開業のイベントがあります。どんな思いかお聞きします。



清水侃 スキー伝来100周年

の関係ですが、市を挙げて市のあらゆる団体を網羅して100周年を盛り上げていこう、そして次の100年に繋げていこうということでイベントや各種大会が開催されました。体協としては主にスキー部を中心にそれぞれのイベントや大会に関ってきました。

また、体協で行う各種大会は「スキー伝来100周年記念大会」の冠を付けて外部へのPRも行ってきました。飯山のジャンプ台が最初にプラスチック化されたのが平成3年だったと思えますが、この100周年に合わせジャンプ台が大改修をされ

ました。このジャンプ台を活用して「スキー伝来100周年メモリアル大会」が開催されました。

この大会には竹内選手、作山選手、山田選手等々にも出場していただき一流の技を披露していただきました。翌年の第20回大会時には、女性センター未来で荻原健司さんの講演会も開催されました。お話の中で、お父さんが仕事を後回しにしてまで兄弟をスキー場へ連れて行って、スキーを滑らせ、ジャンプを飛ばせてくれた事、これがあつたからこそ今の私があるとの話をされました。

時間的負担、経済的負担も家族にしてみれば大きい訳で、誰もができる事では決してないと思います。子ども達を対象としたこの講演会には、保護者の皆さんも数多く参加され、夢の実現に向けた勇気を与えられた思いがいたしました。

それから、新幹線飯山駅開業に向けて重要なもののひとつに、中国深圳市との交流、特にスポーツ交流を深めていければいいなと思います。新幹線が開業になれば交通も便利になるし経済効果も期待できると思います。中国との関係回復を見守りながら発展させていたいただきたいと思ひます。

石澤 ありがとうございます。日中関係の今後を見据えて取組んでいければと思います。

さて、この25年間の1号から100号の中には短い時間では語り尽くせないほど色々なことがあつたわけですが、これからの体協に望む事、期待することをお聞きして終わりにしたいと思います。初めに清水侃会長よりお願いします

清水侃 体育協会の15競技団体の会員は1,300人程ですが、種目によっては人数が減つてきている団体もあります。自分たちが楽しむことも大事ですが、さらに大勢の人に加入していただき元気に活動できる10年後20年後を見据えた活動も大事な時期になつていると感じます。それから、長野五輪を子どもの頃に見て感激した選手がソチオリンピックで大活躍しておりま

す。ソチを見て、この次はと思つている子どもが大勢いると思ひますが、そういう子ども達が夢に向かつて思いきりがんばれるように行政、体協、地域をあげて、子ども達を支える新しい形ができるといいなと感じていま

す。
石澤 山崎会長さんお願いしま

す。
山崎 今、学校での部活の問題があります。学校と連携をしな

がら子ども達の夢や希望を大切にしていって体協の役割が大切になると感じます。

それから、高齢化時代のスポーツの果たす役割が重要になつてくると思ひます。新幹線で飯山に来ていただき民宿に泊まつてもらい、飯山の自然の中でゲートボールやマレットゴルフ等のスポーツを楽しんでリフレッシュしていただくという部分にも体協の果たす役割があるのではないかと思ひています。

そうすれば地域経済の活性化にもつながると思ひます。
石澤 次に、清水長雄会長お願いします。

清水長 体協の各競技団体は、競技団体として優秀な選手を育てていく一面と市民の皆さんにスポーツを広げていくといく二面性がある訳ですが、広報誌は1号から一貫してその精神が貫かれています。これは生涯スポーツ社会になればなるほどその辺を体協としてさらに力を付けていかなければならないと思ひます。

それと、市には社会体育団体が80程ありますが、組織を吸収したり育てたりしていくことを考えなければなりません。その中心になるのが体協だろうと思ひます。最後は、五日制への対応を体協はじめスポーツに関わ

る団体、芸術文化に関わる組織もそのことを考えないと飯山市の地域社会の力量が問われるのではないかと思ひます。

石澤 最後に菊地会長お願いします。
菊池 体協いいやまが100号を迎えましたが、これからも続けていくことが大切だと思ひます。これからは多くの編集委員の皆さんに参加いただき素晴らしい「体協いいやま」の広報誌

を作り上げていただきたい。
石澤 ありがとうございます。100号に至るまでにはさまざまな事がありましたし、今回出て来なかつた話の中にも大事なこともあると思ひますが、1号から100号までに関わられた歴代の会長さん初め、編集広報に関わつた委員の皆様から感謝申し上げます。この座談会を終了いたします。



※座談会当日、平成19年から22年まで会長を勤めていただいた遠山総会長は都合によりご欠席されました。

体協飯山創刊号 発刊時の追想

当時飯山市体育協会
事務局担当

佐藤 俊平



1989年（平成元年）7月15日創刊号発

刊当時のスポーツ界を取り巻く流れは、1998年第18回長野オリンピック冬季大会招致運動の真つ最中でスキーを中心としたスノースポーツに関する検証は全県的な運動と

しての広がりの中にあり激動期でありました。飯山市も例外ではなくスポーツ振興の主要である体育協会の会長が交代され、戦後30年間（昭和22年〜昭和53年まで）飯山市を会場に続いた長野県高等学校スキー大会が終了してから10年ぶりに長野県スキー大会週間（昭和63年1月）の会場となり無事終了した。

そうした中で教育・スポーツ関係者を中心にオリンピック競技会場招致運動はどうしたものか、その前哨戦として市で初めてのスキー国体（第56回スキー国体平成13年2001年2月開催）が話題となり、招致はどうかと水面下での運動は活発化していた。一方学識者の中からはスキー発祥の地としての沿革史の検証整理等もこの際に取り組んではと（この事は平成5年4月に飯山市スキー史が発祥80周年記念として発刊）多くの課題が浮上した。又全学的な更なるスキー振興策として飯山からオリンピックや国体で頑張ってくれる選手を育てると共に市内子供達全員が楽しいスキーが出来る環境整備造りの為に



行政と学校とスキークラブで飯山市ジュニアスキー連絡協会も発足（昭和63年12月20日）させた。こうした状況下で新会長は、今までの体協の活動はどちらかと言えば専門部（各部署単位）中心の活動が多かったが、これからは全市民的な活動に輪を拡げたい。その取り組の第一歩として広く市民に我々の活動内容を知ってもらう目標としてスタートしたのが体協いいやまの原点でありました。

長野県体育協会表彰受賞
飯山市硬式テニスクラブが、平成26年3月25日に公益財団法人長野県体育協会から長年に渡る社会体育の普及と振興など、多大の貢献により有功章を受章されました。おめでとうございます。

当時は、毎日が体協会長と共に目の廻る様な日々で何をしていたのかは良く覚えて居ませんが、あれから四半世紀過ぎた今日まで関係の皆様方のご苦労のお陰で脈脈と発刊が続いている事に感謝を申し上げながら創刊号発刊時の回想といたします。

小林 千佳 選手

平成 25 年度全国中学校体育大会
第 51 回全国中学校スキー大会
(平成 26 年 2 月 2 日～ 5 日 群馬県片品村)

- ・女子 3 km フリー競技 / 優勝
- ・女子 3 km クラシカル競技 / 2 位
- ・女子 リレー 競技 / 優勝 (長野県選抜)



小林千佳選手 (写真右から2番目)

小林 竜登 選手

2014 FIS-NC RACE
第 92 回全日本スキー選手権大会
(平成 26 年 2 月 27 日～ 3 月 1 日 岩手県栗石町)

- ・アルペン競技スピード系スーパーG / 優勝
- ※飯山市で初全日本優勝者。またナショナルチームの一員として4年後の平昌オリンピックを見据えて韓国にも遠征するなど今後の活躍に期待が出来る。



小林竜登選手 (写真中央)

飯山から世界へ
さらなる飛躍を!!